

I 令和5年度 自己評価

【教 務】

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 基礎学力の定着と応用する力の育成
教育課程を通して、基礎・基本となる知識・技能を身につけさせるとともに、その力を応用できる思考力・表現力・判断力を育成する。
- (2) 探究する姿勢の涵養
様々な事柄に興味を持ち、より深く探究しようとする姿勢を涵養する。
- (3) 学習環境の確立
授業を通して、マナーや物事に取り組む姿勢を身につけさせ、次のステップで活躍できる基礎を身につける。
- (4) 教育課程の編成
単位制高校としての在り方について検討を深め、新学習指導要領の主旨を実現する教育課程を編成する。
- (5) 業務量の低減
教員の働き方を見直し、業務量の低減を図る。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
- (2) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
- (3) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
- (4) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
- (5) 高い 5-----4-----③-----2-----1 低い

・評 価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 授業配信のための回線が4回線から3回線となったが、配信を希望する生徒に対し柔軟に対応することができた。授業だけでなく集会や講話など目的に応じてWeb配信を行うことができた。
- (2) 研修主事の配置により、職員研修の目的がより明確化され、新たに3年計画で体系化した校内研修の計画と実施をすることができた。
- (3) Classiの活用を進め、欠席者への授業配信用の教材配付・授業指示だけでなく、通常授業でも課題提出などに活用した。学習時間調査にも利用し集計結果を活用することができた。
- (4) 新学習指導要領に伴い変更され2年目となった観点別学習状況評価の基準に対し、各教科で検討を深めることができた。

改善すべきこと

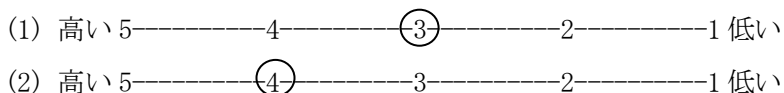
- (1) 校内研修3年計画の1年目を振り返り2年目に向けて検討・改善をしていくことが必要である。
- (2) 次年度で3年目となる観点別学習状況評価の基準に対して、今年度までの評価を振り返り、正しく生徒の状況をとらえて学力の向上につながっているかを各教科で検討し、より良い評価方法に見直しをしていくことが課題である。
- (3) 担当している業務について、重要度・緊急度などを適切に判断して、業務量の低減を進めていくことがより必要である。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観と規範意識を身につけ、主体的な判断や責任ある行動ができる生徒を育成する。
- (2) 安全で安心な学校生活を送れるよう全職員で組織的な生徒指導を目指す。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）



・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 校門での生活委員や部活動生徒のあいさつ運動や校門指導により、生徒のあいさつや身だしなみの意識を高めることができた。
- (2) コロナが5類になり、様々な行事や活動がコロナ前に戻りつつある中で、友人関係トラブルが例年になく多発したが、いじめ事案になることを想定して組織的に対応する体制をとることができた。
- (3) 登校指導や遅刻指導で生徒への声掛けや生徒観察を行い、予防的指導を積極的に行うことができた。
- (4) スクール相談員が配置されて、昼休みに「ブレイクルーム」を開設していただいたことにより、配慮が必要な生徒に対してきめ細かな指導をすることができた。また、スクールカウンセラーの先生による生徒・保護者への助言により、生徒が学校生活に戻ることができたケースが多数あった。

改善すべきこと

- (1) ネクタイやリボンなどの身だしなみ指導が一部の先生だけで行われており、徹底できていない。各 HR で毎朝声を掛ける等、全職員で指導したい。
- (2) 安易な遅刻・欠席が増加している。今年度は遅刻指導（遅刻過多の生徒に奉仕活動を課す）を無くしてみたが、増加の一方である。中学時がコロナ禍で規律の面が身につけていない生徒が入学してきていることを全職員が理解し、少しでも「次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観や規範意識」を身に付けさせて送り出すようにする必要がある。
- (3) 「ブレイクルーム」が他の会議に利用されることがあるため、安心して常時利用できるようにしたい。
- (4) 生徒指導は全職員で取り組まないと成立しない。日々の SHR の時間の話や声掛け等を大切にして、全職員で生徒を育てる体制を強化していきたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 安易な進路決定に流れないように進路意識の高揚を図る。
- (2) 適切な進路情報を幅広く提供し、主体的な進路探究を促す。
- (3) 自ら学ぶ意欲を引き出し、自律的な学習習慣を身につけさせる。
- (4) 個々の志望に応じたきめ細かな指導を充実させ、大学入試に対応できる学力を養成する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- | | | | | | | | | |
|----------|-------|---|-------|---|-------|---|-------|------|
| (1) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (2) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (3) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |
| (4) 高い 5 | ----- | ④ | ----- | 3 | ----- | 2 | ----- | 1 低い |

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 年次ごとに外部講師による進路講演会を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
また、インターンシップの推進、希望者を対象として「教職員ガイダンス」や「医療体験カードゲーム」を実施することで、より具体的な職業観の育成につながった。
- (2) 「進路だより」を適時に発行し、その時期に必要な情報を伝えることができた。また、「進路の手引き」に先輩の『合格体験記』を記載し、最後まで諦めずに学習することの大切さを伝えることができた。
- (3) 模試ごとの目標設定、目標達成のための計画・実践、振り返り、次回の目標設定という流れが定着してきた。過程の目標を達成することで、大きな目標を達成するという意識づけができた。
- (4) 放課後の学習室解放、今年度は年次の協力により教室解放ができ、自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。
- (5) 土曜補習や夏季補習においてハイレベルな講座を開講することで、大学入試に対応できる力をつけることができた。また、教員向けの「志望理由書指導の研修会」を実施し、教員のスキルを高めることができ、小論文・面接指導を全校体制で実施することで、個々の受験校に合わせたきめ細かで濃密な指導ができ、成果として表れている。

改善すべきこと

- (1) 3年間を見通したキャリア教育の在り方を考え、より効果のある進路ガイダンスや進路講話・進路探究の内容を考える。
- (2) 各年次において必要とする情報を、年次毎にタイムリーに発信する。
- (3) 進路研究をさらに充実させ進路意識を高めると同時に、進路目標の具現化に向け何が必要なのかの意識づけを図り、自律的な学習へと繋げる。進学後のミスマッチを避けるために、目的意識をもって進学できるように指導する。
- (4) 学校推薦型選抜や総合型選抜に対して、全校体制での指導の在り方を再考し、職員の共通理解を図り、さらにスキルを高める。また、新教育課程の入試となる令和7年度入試に向けての全職員が研究・準備を進め、対応を進めていく必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 生徒会活動の充実
- (2) ホームルーム活動の充実
- (3) 学校行事の充実
- (4) 部活動の充実
- (5) 各種交流活動・ボランティア活動の充実
- (6) リーダー性や自主性の発揮

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い 5 ----- (4) ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い
- (2) 高い 5 ----- 4 ----- (3) ----- 2 ----- 1 低い
- (3) 高い 5 ----- (4) ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い
- (4) 高い 5 ----- (4) ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い
- (5) 高い 5 ----- 4 ----- (3) ----- 2 ----- 1 低い
- (6) 高い (5) ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 執行部と各委員会および議会とが連携し、コロナ前と同様の青桜祭などの実施に向けて取り組むことができた。
- (2) 前期は、文化委員が中心となり「文化祭クラス企画」について5回の統一LHRを行い、後期はHR委員が中心となり、生徒会が選んだテーマで「統一LHR」を行った。
- (3) 文化祭や体育祭・球技大会に向けて、生徒主体で運営できるようになってきた。文化祭は、文化祭実行委員が中心となり、生徒の手で創り上げることができた。体育祭や球技大会も生徒主体で行うことができた。特に体育祭は全生徒が未体験の行事でありながらも、積極的に取り組めた。
- (4) コロナ前・コロナ禍それぞれの活動のメリットを生かしながら、部顧問が互いに連携し、生徒との信頼関係を築きながら、限られた活動時間内で、熱心に指導をし、充実した活動を行った。
- (5) 4年振りに各務原特別支援学校との直接交流が相互に実施できた。また、社会福祉協議会などと連携して行う募金活動や、生徒が自主的に行った清掃活動などで、地域社会の一員である自覚を高めることができた。
- (6) 各方面で、教員のサポートのもと、生徒がリーダーシップを発揮し主体的に活動できた。

改善すべきこと

- (1) 次年度も生徒主体の形を継続・発展できるよう、教員側のサポート体制を整える。
- (2) 文化祭・体育祭は、本校の特色を生かしながら、生徒・教員間で話し合い、コロナ前の内容を基に新しいスタイルを模索していきたい。
- (3) 交流活動、ボランティア活動については、時期も考慮しながら、参加した生徒の満足度の高い活動を検討し実施する必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

進んで奉仕する心をもって、環境整備に努めるとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身ともに健康で明るく活力ある西高生の育成に努める。

- (1) 自己の健康管理に努める。
- (2) 環境の美化保全に努める。
- (3) 生命の安全に留意する。

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い (5) ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い
- (2) 高い 5 ----- (4) ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い
- (3) 高い 5 ----- (4) ----- 3 ----- 2 ----- 1 低い

・評価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 新型コロナウイルス感染症の5類移行後にも新型コロナウイルスやインフルエンザ等の流行に対して継続して換気や手洗いなどの基本的な感染症防止対策を指導した。
- (2) 1・2年次を対象に体育館にて「性教育講話」を開催した。アンケート結果から正しい知識を身につけられたなど概ね好評であった。
- (3) 女子トイレに生理用ナプキン設置を昨年同様実施した。
- (4) 毎月生徒の健康課題を踏まえた「ほけんだより」を発行し、健康への啓発を行うことができた。
- (5) 購買・生協の管理により、生徒・職員の厚生を継続できた。
- (6) 美化委員会による桜の落ち葉清掃を実施し、環境整備に貢献できた。
- (7) 命を守る訓練では、不審者への対応からの避難訓練を実施できた。また、「災害・非難カード」特別講座を実施し各家庭での備えを考える機会を設けることができた。
- (8) 昨年度の反省を活かし、1年次生対象の心肺蘇生法講習会を、2クラスずつの4回に分けて実施できた。また、職員対象の心肺蘇生法講習会も実施した。
- (9) P F A S への対応を夏季休業中に対応することができた。

改善すべきこと

- (1) 掃除時間に掃除当番が掃除している近くでスマートフォンを使用しないようマナーアップを図る。
- (2) 桜の木の落葉掃除を夏季休業明けから開始し、より学校に貢献できる場を提供していきたい。
- (3) 命を守る訓練の反省で指摘された内容を来年度に活かしていきたい。

1 本年度の当初に立てた目標

- (1) 図書館活動の充実（読書促進・図書資料の整備・図書委員会の活発化・教科との連携強化）
 (2) 校誌『さくらぎ』の発行
 (3) 「芸術鑑賞会」の円滑な実施
 (4) ふるさと教育（地域課題探究型学習）の推進

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

- (1) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
 (2) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
 (3) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い
 (4) 高い 5-----④-----3-----2-----1 低い

・評 価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

(1) 図書館活動の充実について

ア 読書週間に合わせたイベントの他、生徒の個性あふれる「よむよむザウルス」（図書委員）・「推薦図書一覧」（全職員）の発行や展示の工夫によって、読書を促すことができた。

イ 「朝の読書」は8年目に入り、その意義・効用について共感と理解が深まった。

ウ 図書委員が主体的に活動し、「読書週間」「朝の読書」などの広報活動に積極的に取り組んだ。

エ 探究型の調べ学習で図書館を利用する授業に対して、教材となる資料を迅速に揃えてサポートすることができ、利用数も昨年度に比べ増加した。

オ 本年度も図書館主催の「教養アップ講座」を実施できた。

(2) 校誌『さくらぎ』は、見直しを重ね、「学校の記録を残す」というスタンスで印刷製本した精度の高いものを発行してきた。今年度も同様のものを発行する予定。

(3) 芸術鑑賞会は「古典芸能・学校寄席」を適度な時間で2回公演にするなどコロナ感染予防対策をして実施することができ、生徒、職員ともに、好評であった。

(4) 「ふるさと教育」は1、2年次生が総合的な探究の時間などを活用して、昨年度の実施内容を踏襲しながら年次、進路指導部と連携し、各講話の講師、各務原市役所の方々、年次の先生方の協力の下で実施することができた。1年次ではディベートの講演会を実施することができ、探究活動をしていく上での力となった。また、2年次の市役所との交流は、現在の社会の状況を把握することができた。生徒たちにとって、地域社会について知る良い機会となった。

改善すべきこと

(1) 図書館を利用した探究型の学習について、関係教員との事前打合せをしっかりと行い、資料準備やレファレンスをさらに円滑に進めたい。また、教科だけでなく分掌や年次とも連絡を密にして関連資料を整備し、その展示を工夫したい。

(2) 貸出冊数を増やすための工夫を凝らし、より多くの読書体験を積ませたい。授業等での図書館活用も一層推進する。また図書館施設の整備も図りたい。

(3) 新しい図書館システムを有効に活用できるよう他校ともより連携を図っていきたい。

(4) 「朝の読書」は、実地方法を検討しながら、今後も行事として定着させたい。

(5) 芸術鑑賞会は体育館での実施で、生徒に満足してもらえる内容のものを選定・実施したい。

(6) 「ふるさと教育（地域課題探究型学習）」は地域課題探究型学習推進事業を受け、年次・進路指導部と連携し実施しているが、来年度で6年目となり、今後の運営や活動について見直しを図る必要がある。

1 本年度の当初に立てた目標

1 基本方針

地域及び生徒・保護者に根ざした PTA 活動の推進を行い、学校と会員との連携を図り相互理解を深めるために活動を活発化する。また、生徒個々の自己有用感を高めるための支援を行う。

2 重点目標と取り組み

- (1) PTA 活動の充実 PTA 活動の活性化、家庭との連携重視、公正な会計の執行
- (2) 同窓会活動の振興 同窓会との連携・協力、同窓会活動への支援

2 目標に対する達成度と評価

・達成度（目標が複数ある場合は、分けて評価ください）

1 基本方針	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1 低い
2 重点目標 (1)	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1 低い
(2)	高い	5	-----	④	-----	3	-----	2	-----	1 低い

・評 価（評価すべきことと今後への継続、改善できること、方策等）

評価すべきこと

- (1) 感染症対策が続く中、PTA と学校が緊密な連携を取り、信頼関係を深めることによって、楽しく活発な PTA 活動を行っていただいた。
- (2) PTA 役員の選出において現役員が合格発表の当日に尽力し、新役員を選出している。HR 正担任の負担がかなり軽減されている。
- (3) PTA 総会は書面による評決となったが、787票（95%）の回答があり、非常に円滑であった。保護者へのアンケート結果は肯定的評価が高い。（下記※7月実施）
※学校は、PTA や部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。（87.5%:-4.1）
- (4) 文化祭1日目にPTAくじ引き大会及び縁日を実施した。PTA 役員の方々が主体的に、計画から実施まで楽しみながら積極的に取り組んでいただいた。役員の方々も和気藹々とした雰囲気の中で良い関係を築くことができている。参加券を生徒に事前に配布することで効率的な運営ができた。
- (5) PTA 研修会は、参加者21名（教員・生徒含む）と昨年と比較して微減した。保護者にとって魅力的な情報が多く、参加者には好評であった。（昨年25名）
- (6) 40周年記念事業で設置した懸垂幕昇降機を活用しメッセージを発信した。同窓会が中心となって創立50周年に向けて必要なデータの収集及び記録を心がけた。

改善すべきこと

- (1) 体育大会では飲料水配布を一本から二本に、冷凍(業者撤退)から冷蔵に変更した。文化祭でも飲料水を配布できないか検討していきたい。保護者が生徒とふれあう場や生徒の様子が観られる機会を増やしていきたい。
- (2) 30周年から10年間のデータ管理がしっかりできていない。50周年記念誌に向けて必要なデータを管理する必要がある。

【意見・要望・評価等】

- ・将来的には「ものづくりのまち」である各務原市に戻って来る人間教育、人材育成をお願いしたい。
- ・一人ひとりの進路にあったカリキュラム編成は、単位制の強みであると思う。
- ・各務原西高校や他の高校をみて、高校選びは重要な要素であると思った。
- ・生徒や先生に必要とされることは、年々増すばかりで大変だと感じている。
- ・春の時点と比較して、生徒先生ともにリラックスしている様子がうかがえた。
- ・本日のような悪天候でも生徒の出席率が高く、学校が好きなのだなと感じた。
- ・3年次の生徒に対して、進路の情報がたくさん共有されたのはありがたかった。
- ・先生からの指導の手厚さに驚きと感謝をする一方で、負荷が大きいのではないかと心配している。
- ・今年度からはじまったClassiでの出欠連絡は時代の流れを良い意味で感じた。
- ・Classi機能であるベネッセの情報量の多さに、理解せねばならないことへの不安も感じた。
- ・教科「情報」や、クレジット（カード）の利用など、時代の流れを感じる授業に驚いた。
- ・生徒の挨拶について、声が小さい生徒や無表情の生徒なども含めた千差万別の対応があり、全体的にもっと元気な挨拶を返してくれるとよいと感じる。
- ・校舎の細部で汚れが目立つ箇所もあるので、業者による清掃などを検討してもよいのではないか。
- ・昨今の多様な進路選択や、その機会を育むために、学力一辺倒ではない学校運営も必要ではないかと考えさせられた。